コンピュータ西暦2000年問題

２０００年問題とは、コンピュータが西暦の年数を西暦の下２桁のみで処理している場合、２０００年を迎える際１９００年と２０００年の区別がつかず、誤作動するおそれがあるというものです。

この仕組みが私達の生活に深く根づいているコンピュータやマイクロコンピュータ搭載の電子機器に使われている場合に様々な問題が起こる可能性があります。

もし適切な対応がなされない場合金融、エネルギー、通信、交通、医療といった日常生活を支える分野に特定の日時に同時多発的・広域的に発生する可能性があります。

２０００年問題が発生する確率を極力減らすため、企業などの事業者はプログラムの修正や模擬テストを行っています。

横越町の取り組み

町の保有するシステムの点検やプログラム修正、模擬テストを行い正常に作動することを確認していますが、万が一問題が発生した場合に備え、迅速な対応ができるように対策本部を設置し、横越町危機管理計画を策定しています。

問い合わせ先
横越町役場　総務課
☎３８５－２１１１

国でも２０００年問題に関するQ&A集等のホームページを設けていますので感心のある方はアクセスしてみてください。

国のホームページアドレスは欄外に掲載

問題発生集中が予想される日
１９９９年
12月31日　最後の日
２０００年
1月1日　初日
1月4日　最初の営業日
1月8日　最初の土曜日
1月31日　最初の月末処理
2月29日　うるう年
3月31日　最初の年度末処理

新潟都市圏の将来像を考えるシンポジウム

新潟都市圏シンポジウム実行委員会では、新潟都市圏の将来像（田園型政令都市）の姿と、その実現のための広域行政のあり方等を考えていただくため関係首長をパネリストに迎えシンポジウムを開催します。

主催
新潟都市圏シンポジウム実行委員会（新潟都市圏総合整備推進協議会、新潟市、豊栄市、両津市、横越町、亀田町、黒埼町、聖籠町、新潟広域行政懇話会）

日時　11月24日（水）
午後1時30分～4時30分

会場
黒埼町農村環境改善センター

テーマ
にいがたの都市の型（かたち）
田園型政令都市の可能性を考える

パネリスト
新潟市長、新津市長、豊栄市長
横越町長、亀田町長、黒埼町長

参加申込方法
はがき又はファックスで住所、氏名、年齢、電話番号を記入し申し込んでください。尚、定員になりしだい締切りします。

参加者には、後日入場整理券を郵送します。

問い合わせ・参加申込先
〒９５１－８５５０
新潟市学校町通１番町６０２番地１
新潟市役所広域行政課内
新潟都市圏シンポジウム
実行委員会事務局宛
電話　２２８－１０００
内線２１０８　２１０９
ＦＡＸ　２２３－１５５７

耳よりな情報
広域情報ネットワーク

＜水原町＞
水原代官所

江戸時代の代官所を忠実に現代に復活。時空を越えて、リアルな昔に触れてみませんか。

▶**開館時間**：午前９時～午後４時
▶**休館日**：月曜日
（月曜日が祝日又は休日の場合は火曜日）
▶**入館料**：小・中・高　200円
一　般　300円
▶**問い合わせ**：水原町外城町10番５号
水原代官所☎0250－63－2737

＜京ヶ瀬村＞
京ヶ瀬村立図書館

蔵書約48,000冊、ビデオ、ＣＤ、ＬＤ等各種の図書館資料が整備されています。

横越町民にも貸し出しを行っており、この機会に是非ご利用下さい。

▶**開館時間**：
火曜日～金曜日　５月～８月　午前10時～午後７時
９月～４月　午前10時～午後６時
土・日曜日　午前10時～午後５時
▶**休館日**：毎週月曜日、祝日、５月４日
年末年始　その他館内整理日
▶**問い合わせ**：京ヶ瀬村大字曽郷1028番地
京ヶ瀬村立図書館☎0250－67－2500

ふる里物語　町史編さんだより⑥⓪

横越の古民謡

横越町に伝承する古民謡の中から、「仕事唄」に属するもののいくつかを紹介してみることにします。農・林・漁業、諸職などにかかわる労作唄は、かつては各地で数多く聞くことができたものです。

田畑の耕作どきに歌われるものが「田唄」で、作業の円滑化、能率化、そして元気を出すために歌われたものですが、その中には作物の豊穣を祈る心も含まれていました。次に、田唄のいくつかをあげてみましょう。

代掻き唄

牛や馬にマンガ（馬鍬）を引かせて代掻きするときの唄ですが、横越では「だえや節」ともいっており、昭和初期ころまでよく聞かれたものです。

へどんどヤアー　どんどヨー
鳴る瀬はどこだヨー　鳴る瀬深山
ヨーンダガヨー　滝の音ヨー
ソーラ　歩け歩け へ（横越）

田植え唄

往時の田植えでは、ユイ（結）やスケ（助け）と呼ぶ協力体制でやる方式がよくみられたものです。大勢の早乙女たちの明るく元気なさつき唄が、田面に響いていたものでした。

へ下がれ下がれ　どんどん
下がれ
植えて下がれば　旦那のためだへ

横越下諏訪神社前の田植え風景
（昭和10年代）

臼ふき唄

稲刈りが終わると、次が稲扱きと臼すりの作業。籾をする臼は重たい土臼なので、数人が合力でやる必要から、唄に合わせて籾すりをしたものです。

へ臼をふくにも　ふきよがござる　肩をいからし　二の腕下げて　臼のぐるりの回るよに　ソーラ　回せや回せ へ（横越）

田唄には、このほか「草取り唄」「稲刈り唄」「稲扱き唄」「米つき唄」などいろいろとあったはずなのですが、今ではもう聞くことができなくなってしまいました。

昔から、その土地土地で歌い継がれてきた古民謡は、人々の暮らしや仕事ぶり、行事や信仰、喜びや苦しみなどを反映している、いうならば大切な文化遺産、資料なのです。急速に消滅しようとしている昨今ではありますが、それでも今なら、まだいくらかは掘り起こせるはずです。なんとか記録、保存しておきたいものです。

掲載した民謡は、増渕不二男氏（横越）が昭和58年に採録したものを使わせていただきました。（民俗部会　駒形　貞）

俳句
（公募作品　高点句）

句題　橘　とろろ汁　猪

橘や境内を掃く禰宜と巫女　神田斗子
老杣の手柄話しやぼたん鍋　坪谷十九一
橘や荒れ放題の空き官舎　神田斗子
いのししの山の奥山星の降る　今井天花
山男混む民宿のとろろ汁　江口　新
擂り鉢に似合う擂り粉木とろろする　江口　新
髭はやし食わずきらいのとろろ汁　今井峰雪
橘や庭うつくしき水琴亭　小林竹生
とろろ汁母は貧しさ口にせず　小林千恵子
即席は母が自慢のとろろ汁　今井夫子

ご厚志に感謝

町の社会福祉に役立ててほしいと、林工業株式会社（林正子）様（横越）より20万円、高橋文雄様（沢海）より10万円それぞれ香典返しとして寄付がありました。

又、横越町商工会青年部と婦人部より、町の福祉事業に役立てて欲しいと、ビアガーデンの収益金と参加者からの寄付金８３、３６９円の寄付がありました。

ありがとうございました。